

看板は街を彩るコミュニケーションツール 街ゆく人にも広告主にも楽しさ届けたい

設計製作から施工まで、一貫製作体制を強みに創業30余年。
徳島県内のみならず四国・関西を事業エリアに、様々な看板を
幅広く手掛ける。コロナ禍での広告宣伝業界の苦境を乗り越えた今
次の時代を展望し、デジタル技術との融合で付加価値拡大を図る。
看板界のリーディングカンパニーめざして。



最新溶接技術習得による次世代看板製造事業

1. 取り組みの経緯

「設備に仕事がついてくる」という創業者の信念の下、積極的な設備投資により設計製作から施工まで一貫受注体制を構築。種々の案件を手がけ、事業の幅を広げてきた。近年、需要の高まりを見せていたのが立体文字であったが、この分野では薄板による製作の一部を外注に頼らざるを得なかった。そこで、付加価値率の点でも納期の点でも、内製化を図るべく、機械と技術の導入をめざした。



▲導入したファイバーレーザー溶接機(WEL-KEN社製)

2. 実施内容

内製化に向けての課題は「溶接・組立」工程にあった。従来のTig溶接は熱量変化が大きい歪みが発生しやすく薄板材に不向き。後処理となる歪みとりの工程が非効率かつ人的負担も大きい。この難点を解消するために、高精度高密度溶接を実現するファイバーレーザー溶接機導入と技術習得を図った。この溶接機は非常に高コストであるため、徳島県内では当社が初の導入となった。



▲レーザービームで歪みや焼けのない溶接を実現

3. 取り組みの成果

レーザービームを細かく自動回転させる機能を駆使し、良好な溶け込みを実現。歪みや焼けの発生を抑え、作業時間の短縮も図れた。いちばんの目的であった立体文字の制作には特に有用であり、高品質での内製化と短納期化と、合わせて提案の幅が大きく広がる。また、Tig溶接燃料の高騰という問題にも対処でき、高付加価値化をすすめるための頼もしい事業基盤を構築することができた。



▲立体文字をLEDで彩って、夜間の視認も上質に

事業者から一言 次のステップめざして体制強化を

今年、当社の会長が理事長を務める徳島県屋外広告協同組合が所属する日本屋外広告業団体連合会の総会が、徳島で行われます。看板は街に活気をもたらす大事なツールですから、しっかり情報交換し、業界全体で成長していきたいです。当社も次のステップへと体制を強化しながら、より幅広い事業展開をめざします。



代表取締役
竹田 宗谷氏

株式会社マルアート

〒771-1240
徳島県板野郡藍住町乙瀬字中田30-1
Tel.088-693-4125 Fax.088-693-4126
●代表取締役 竹田 宗谷
●設立年月日 平成5年4月1日
●資本金 1,000万円
●業種 金属製品製造業
●従業員数 15名
●ホームページ <https://www.maruart.jp>